

科目名	アナログ回路		英文表記	Analog Circuits		2014/3/8	
科目コード	4317						
教員名: 姉崎 隆 技術職員名:						作成	
対象学科/専攻コース	学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態	授業期間	
メディア情報工学科	4年	選	学修	2単位	講義	前期	
科目目標	電気回路(アナログ回路)における、直流回路と交流回路の取り扱い方や過渡現象の解析方法を習得し、情報系システムを履修するのに必要な幅広い知識を涵養することを目標とする。						
総合評価	期末テストを行う(60%)。 講義内で行う演習の発表、演習レポート提出および小テスト(40%)。 以上により評価する。						
科目目標達成度とJABEE目標との対応	科目達成度目標(対応するJABEE教育目標)			達成度目標の評価方法		目標割合	
	①	抵抗、コイル、コンデンサ素子における電圧と電流の関係を理解し、電気回路の計算に用いることができる。(A-3)		⇒	期末テスト、演習提出内容および小テストで評価	25%	
	②	キルヒホッフの法則や重ねの理等の定理を理解し、電気回路の計算に用いることができる。(A-3)		⇒	期末テスト、演習提出内容および小テストで評価	25%	
	③	瞬時値、複素数表示を理解し、これらを正弦波交流回路の計算に用いることができる。(A-3)		⇒	期末テスト、演習提出内容および小テストで評価	25%	
本科・専攻科教育目標	1	2	3	4	JABEEプログラム名称	メディア情報工学	
	○		◎		JABEEプログラム教育目標	(A-3)	
評価方法と評価項目および関連目標に対する評価割合							
	目標との関連	定期試験	小テスト	レポート	その他(演習発表・発表・実技・成果物等)	総合評価	セルフチェック
評価項目		60	40			100	
基礎的理解		30	20			50	
応用力(実践・専門・融合)	①②③④	30	20			50	
社会性(プレゼン・コミュニケーション・PBL)							
主体的・継続的学修意欲							
授業概要、方針、履修上の注意	電気回路(アナログ回路)における、直流回路と交流回路の取り扱い方や過渡現象の解析方法等、電気回路理論を中心に講義を行う。 実践を重視するため、回路シミュレータを活用する。また、課題演習時間を多くとるよう配慮する。						
教科書・教材	・回路シミュレータ「Qucs」による「電子回路」入門、斎藤剛史、I/OBOOKS ・都度、教材(手順書、資料)を提示する。						

授 業 計 画					
週	授 業 項 目	時間	授 業 内 容	自学自習 (予習・復習)内容	セルフ チェッ ク
1	全体説明、シミュレータ導入	2	講義内容説明、Qucsシミュレータの導入		
2	シミュレータ基本操作	2	Qucsシミュレータの立ちあげと基本操作		
3	直流回路基礎	2	オームの法則、抵抗の直/並列接続		
4	交流回路基礎	2	ベクトルの複素数表示		
5	交流回路基礎	2	ベクトルの複素数表示		
6	交流回路基礎	2	交流基本回路の計算		
7	交流回路基礎	2	交流回路の計算		
8	交流回路基礎	2	交流回路の計算		
9	交流回路定理	2	重ね合わせの理		
10	交流回路定理	2	テブナンの定理		
11	交流回路応用	2	共振回路		
12	交流回路応用	2	等価回路		
13	過度現象解析	2	過度現象の基礎		
14	過度現象解析	2	積分と微分		
15	過度現象解析	2	過度現象解析とラプラス変換		
期末	期末試験	[2]			
学習時間合計		30	実時間	22.5	
自学自習(予習・復習)内容(学修単位における自学自習時間の保証)				標準的所用時間(試行)	
①	授業後の自学自習を前提として、毎時間演習課題を課す。			平均2時間×15	
②					
③					
<b>備考欄</b>					
(共通記述) ・ この科目はJABEE対応科目である。 (各科目個別記述) ・ この科目の主たる関連科目はデジタル回路(2年)、メディア情報工学実験Ⅲ(3年)、デジタルシステム設計(4年)					

学習時間は、実時間ではなく単位時間で記入する。(45分=1、90分=2)

1

う施後育  
に期期其  
す間部系  
るが分巨  
。見はに  
た後育  
（開目期其  
講すの音  
しぐみ々  
ないに記の  
わ述み  
時かし言  
期る、定  
はよ実

